

アカハライモリの観察

水俣市立水俣第一小学校 3年 井手下 侑惺

1. 研究の目的

ぼくは両生類や虫類の生きものがすきで2023年4月にアカハライモリをつかまえたので飼って観察することにした。

アカハライモリが1年間どのように生活するのか調べた。またアカハライモリの赤ちゃんも生まれたので成長の仕方を研究することにした。

2. 研究の内容・方法

(1) アカハライモリの体について

体の長さをはかったりして①体のつくり、②オスとメスのちがいについて調べる。

(2) 生活について

(春～秋)①つかまえた場所が水中だったので水そうで飼った。水の中でどのように生活するのか調べた。

②アカハライモリは夜行性のイメージがあるが本当は夜行性なのか昼行性なのか昼と夜の息つきと動き方のちがいについて調べた。

(冬)③どのように冬眠するのか冬眠期間について調べた。

(3) 卵について

産卵する時期・産卵場所・卵の数・大きさ・形を調べた。

(4) アカハライモリの赤ちゃんについて

卵からふ化して成長する様子を調べた。

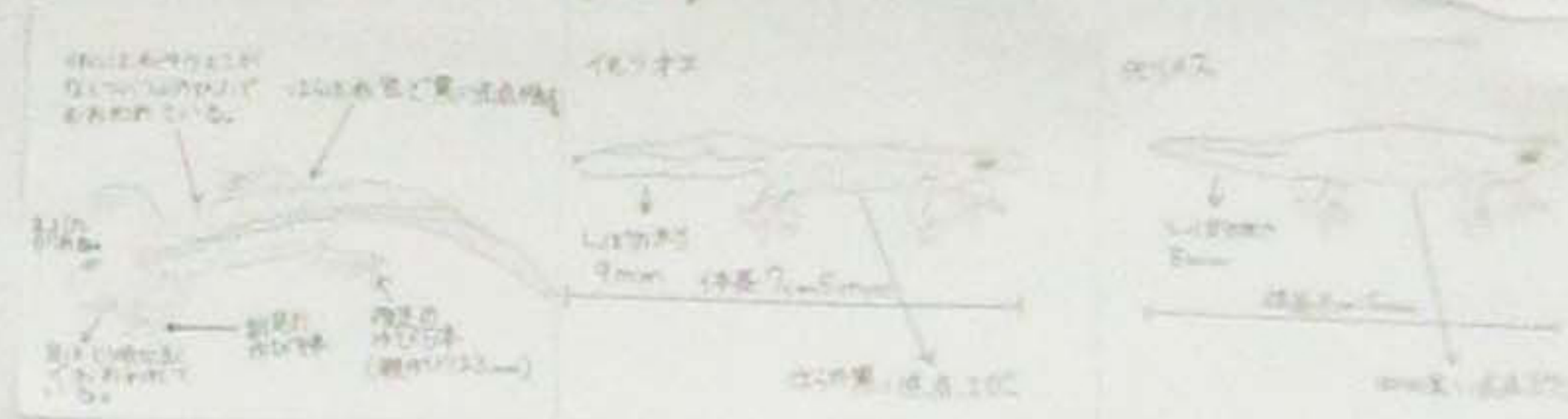
3. 研究の結果

(1) ① アカハライモリの体のつくり (図1)

② オスとメスのちがい (図2)

(図1)

(図2)



(2) ① 春～秋の水そうの様子



・エサは、人工の物を1日1回15つづあてた。
・水のでき温は15～25℃といわれている。真夏は水温が30℃になると動きがにぶくなっていた。冷水にかえると元気になった。

・エアーポンプはつけずに、2～3日ごとに水をかえた。

② (昼の様子) エサをすいこむように口をあけて食べる。

・のどをふるふるるとふるあせることがよくある。つかまえた「ク」と鳴く。のどから声を出しているようだ。
・石や木の上において、水草の根や葉のかげにかくれていることが多い。息つぎの時に水面に上がってくるがほとんど動かない。1匹でいることが多い。

(夜の様子) 昼とくらべると動くことが少ない。

・ねる時はかべにはりついてまぶたを閉じていた。

③ 冬の水そうの様子



・11月21日に水そうを変えた。エサは、まとめて入れた。

・1月にそ、と見てみたら、全然動いていなかった。

・4月14日に見ると動きはにぶいけど、目をさましていた。

・メスのおなかが大きくなっていた。

・冬眠期間はおよそ4か月間だった。

(3) 冬眠があけてからオスとメスがくっついていて、その後受精したと考える。そして水草の根のところに卵が産んであった。

	卵を発見した日	卵からふ化した日	卵の数	生まれた数
2023年	6月16日	7月8日	7コ	7匹
2024年	6月14日	7月5日	8コ	8匹

・卵の回りは透明で中は白い。
・大きさは、2mmくらい。約1週間てふ化。
・一粒ずつバラバラに根にくっついていて。

(4) ふ化してからの成長

(成長の様子)



4. わかったこと・まとめ

(1) アカハライモリをじっくり観察することてまぶたがあることや目にまくがあること、オスとメスのちがいを知ることができた。

(2) 息つぎの間かくが日中より夜の方が長く活動量が少ないので昼行性ということがわかった。冬眠に成功して冬の生活の仕方もわかった。

(3) 2回の産卵で合計15匹の赤ちゃんが生まれた。メスの体内に精子を入れて受精させる体内受精をすることがわかった。

(4) 卵からふ化して幼生から幼体へと成長する様子がわかった。えら呼吸から肺呼吸にうつていく様子が観察できた。昨年は冬眠がで

きずに死んでしまったので今年は冬眠の環境を工夫したいと思う。